

○七管本部長の江口です。

○今月の記者懇談会は、七管区としては初めての試みとして、「関門海峡ミュージアム」の一角をお借りしての開催となりました。当施設は、緊急事態宣言の解除に伴い10月1日から久しぶりに再開されておりますが、2階には海上保安庁展示コーナーも常設されていることもあり、お子さんたちの見学など賑わいが戻り、我々としても大変ほっとしているところです。

○本日は、この後、プレスリリース事項として、来月開催予定の「警備救難競技大会」と、現在展開中の「秋季安全推進活動」の状況についてご報告申し上げますが、このメニュー以降は、来週月曜日、11月1日が灯台記念日であることにちなみ灯台にスポットを当てた内容でアレンジいたしました。

○灯台記念日は、日本最初の洋式灯台である観音崎灯台の起工日が、新暦で明治元年の11月1日であることに由来します。七管区内にも、明治期に建設された灯台が現在も14基現役で活躍してくれています。

昨年12月には、全国の3125基の灯台の中から4基が重要文化財として初めて指定されましたが、このうち3基が七管区に所在しています。北九州市の部埼灯台、そして下関市の角島灯台と六連島灯台です。

この度、これら3灯台が重要文化財に指定されたことを記念して記念切手が発行される運びとなりましたことから、本日は、地区統括の郵便局長様から贈呈頂く状況を広報させて頂きます。

○関連いたしまして、関門海峡日本遺産協議会様と協賛させて頂き「灯台フォトコンテスト」を開催し、大賞を含む

入賞作品10点が決定しましたので、これらを披露させて頂くとともに、大賞、特別賞を受賞されたお二方への授賞式を広報させて頂きます。

○また、プレスリリース事項のご報告に引き続いては、海上保安マイスターとして、当ミュージアムにおいても海上保安庁の活動紹介で活躍していただいている前畑様に講演をお願いしております。前畑様は、日本で最後の滞在型の灯台守の一員として男女群島女島灯台に勤務したご経験をお持ちです。

○最後に、巡視船「きくち」による関門海峡の洋上視察を予定しております。二年ぶりの洋上視察実施となりますので是非ご乗船ください。

航海においては航路周辺に設置されている灯台等の航行支援設備の状況をご説明申し上げます。先月の定例記者懇談会において、海上交通センターの見学にいらしていただいた記者の方には若干説明申し上げましたが、2つの灯台の重なりを利用して船に針路を示す導灯の機能も実際に航路を航行しながら見学頂けます。海上保安庁は全国には46基の導灯を設置していますが、その多くは港内に入港する際のアプローチ用で、航路の変針指標として設置しているのは関門航路のみです。ご覧いただける下関導灯は明治34年に設置されたものが現役で活躍しています。

また、巡視船「きくち」には、10月1日から、保安学校を卒業した新人女性海上保安官が配属され、船内居住しながら日々頑張っていますので、是非、取材をお願いします。地元北九州市出身です。

私からは以上です。